

就任のご挨拶



公益財団法人通信文化協会会長

團 宏明

このたび、公益財団法人通信文化協会の会長への就任にあたってご挨拶を申し上げます。

私は、当協会に二〇一四年七月から四年間、理事長として勤めさせていただきましたが、再び協会での職務を通じて会員の皆様と共に活動できますことを光榮に存じます。

当協会は一九〇八年（明治四十一年）に、通信大臣であった後藤新平氏を初代総裁として通信協会として創設されました。当時は一九〇五年に終結した日露戦争後の苦しい経済状況下で政府の財政も厳しく通信関係の発展のための予算も確保できない中で、当時の通信省の方々が私財を通信協会に拠出して調査研究や情報交換を図ってきたものと伝えられています。

以来、百十余年にわたって郵政事業、通信、放送といわば「通信事業」の発展と通信文化の向上のために活動を行い、現在の「通信事業」の興隆に貢献してきたものであります。

このような経過を経て現在の通信文化協会は、郵便、電気通信の始祖である前島密にちなむ前島密賞の贈呈を行うほか、全国六万三千人の会員へ向けて会誌「通信文化」を毎月発行するとともに、講演会を行う等の文化事業を幅広く行っています。また、一五〇年の歴史を伝える郵政博物館の運営を日本郵政株式会社からの委託を受けて行っています。

通信事業は、そのいづれもが国民生活、経済活動などに不可欠な存在、国のインフラとして、明治以来の長い歴史の中で重要な役割を果たしてきておりますが、昨今の我が国の課題の解決のためにはより幅広い貢献が必要と思われれます。

本年は、旧「通信協会」から「通信文化協会」として承継して十年目となります。この十年間における世の中の情勢をみますと、世界的な激甚災害の増加、我が国における少子高齢化の加速、国際競争力の陰り、思いもかけなかった国際情勢の激変、新型コロナへの対応など、さまざまな分野で大きな課題が発生し対応を迫られています。

このような時代に、協会としても、時代を見つめて「守成」でなく「創業」の精神をもって、会員の皆様とともに前進して行きたいと考えています。

会員各位におかれましては、引き続きご指導、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



就任のご挨拶

公益財団法人通信文化協会理事長

高橋 亨

公益財団法人通信文化協会の理事長就任に当たりご挨拶を申し上げます。

当協会は、本誌読者の皆さまご案内のとおり、一九〇八年に通信協会として創設され、長らく通信協会として活動し、二〇一二年に公益財団法人通信文化協会となり現在に至っております。この間、協会は日本の郵政、通信、放送の各事業分野の発展を支える各種の活動を行ってきており、人と人をつなぐコミュニケーションの発展、向上をサポートする役割を果たして参りました。

現在は、郵政博物館の運営事業等、前島密賞の贈呈事業、文化講演会の開催等の通信文化の普及・発展に関する事業を行っております。

郵政博物館は、日本郵政株式会社の委託を受けて当協会が運営しておりますが、一五〇年にわたる郵政事業の歴史的資料を数多く展示、公開することにより、先人の知恵や工夫を後世に伝えていきます。いわば温故知新の宝庫です。万国郵便連合より送られてきた世界の切手も手軽に閲覧できます。読者の皆さまには、家族に仕事の理解を求めるにも仲間で思い出話をするにも好適の場です。この間の郵政の来し方を振り返り行く末に思いを致すも可です。皆さまのお越しをお待ちしております。

前島密賞は、一九五五年度に創設された、通信関係機関の最も権威のある賞として個人や研究グループに授与され、その功績を称え顕彰するとともに文字コミュニケーション・情報通信・放送文化の発展に寄与するものです。過去の偉業を称えることに加え、二年前からは、現在活躍し今後もお一層の功績が期待される人を対象とした奨励賞が創設されています。

また、会報「通信文化」は、約六万三千部という大きな部数を毎月発行しています。仕事や職場に関すること、世の中や地域の話題、健康やお金に関する事など会員読者のさまざまなご要望にお応えする魅力ある誌面づくりに引き続き努めたいと考えております。

世の動きは急ですが、当協会の公益的使命を踏まえ、少しでも会員の皆さまのお役に立つことができると考えておりますので、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。